

指導計画を立案できた。  
● 学年全体で同じ方向性を共有し、一貫性のある研究ができた。

ため、負担を軽減しながら効果的な方法を検討する必要がある。  
● 教師間での温度差や取り組み方の違いを解決し、縦横の連携を強化する必要がある。

ICTの活用に関れ、スムーズに使用できなくなった。  
● ロマ字入力が必要な児童が多く、キーボード操作に慣れていない。  
● 粘り強く考え抜くのをさらに育てる必要がある。

令和6年度(2024年度) SASAHARA elementary school  
～対話を通して主体性を育む教育活動の実現を目指して～  
子どもの育成

めざす学校像  
今日の学び合いも輝け、明日の学びが待たれる学校  
(1) 子どもたちが学ぶ喜びに満ち、楽しく通える学校・学級  
○ 個々の個性や能力に応じた学びの充実(個別最適化学び)  
○ 安心して学校で学ぶ学校・学級

### 研究テーマ

## 学びをデザインする力を育てる

～主体的・対話的な授業の実現に向けたカリキュラム・マネジメント～

笹原小学校への期待  
カリキュラム・マネジメントの充実と拡張

### 研究のまとめ



### 研究全体会講演資料



### 指導案

参考にして、

### SIDE



1年生

「好きなこと、ななに」



2年生

「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」



3年生

「伝わる言葉であらわそう」



4年生

「ごんぎつね」



5年生

「あなたは、どう考える」



6年生

「デジタル機器と私たち」